



評 定 書 (工法等)

申込者 日鐵住金建材株式会社 代表取締役社長 中川 智章 様

件 名 デッキ合成スラブ

平成 28 年 12 月 16 日付けで評定の申し込みのあった本件については、下記のとおり評定申込事項に係る技術的基準に照らし妥当なものと評定します。

なお、本評定書の有効期間は、本評定日より平成 34 年 2 月 16 日までとします。

平成 29 年 2 月 17 日



一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

理事長 橋本 公博



記

1. 評定申込事項

本評定は、デッキプレート上面にリブを立ち上げたデッキプレートを用いた合成スラブ構造において、当該デッキプレートが平成 14 年国交省告示第 326 号の「デッキプレート版」に適合することについての構造安全性に係る評定の申し込みがなされたものである。

2. 評定の区分

新規

3. 評定をした工法等

別紙 1 のとおり

4. 評定の内容

(1) 方法

本評定は、鋼構造評定委員会（委員長：田淵基嗣）において、申込者から提出された資料に基づき審査を行ったものである。

(2) 審査内容

別紙 2 のとおり

5. 備考

本評定は、設計・施工・品質管理等が適切に行われることを前提に、提出された資料に基づいて行ったものであり、個々の工事等の実施過程及び実施結果の適切性は評定の範囲に含まれていない。

評定申込事項

1. デッキ合成スラブの仕様

1. 1) デッキプレートの種類

デッキプレート両端と中央に縦リブを持つ断面形状のデッキプレートで、その形状寸法および断面性能は図1-1, 1-2, および表1の通りである。

1. 2) デッキプレートの材質

建築基準法第37条に基づく平成12年建設省告示第1446号別表第1(ろ)に掲げられる「JIS G 3352 (デッキプレート)」の規格に適合するもの。

1. 3) デッキプレートの板厚

板厚は1.0mm、1.2mm または 1.6mm のものとする。

1. 4) デッキプレートの寸法許容差及び質量計算方法

「JIS G 3352 (デッキプレート): 2014」に規定する8.「形状、寸法及びその許容差」及び9.「質量」による。

1. 5) デッキプレートの表面処理

めっきの付着量は、注文者との打ち合わせにより決定する。

1. 6) コンクリートの種類

「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に規定された普通コンクリートまたは軽量コンクリート1種および2種とする。

1. 7) コンクリートの強度

設計基準強度は18、21、24 N/mm²とする。

1. 8) コンクリートの厚さ

総厚150mm以上200mm以下(デッキプレート上面より60mm以上110mm以下)とする。

1. 9) スラブの配筋

コンクリート上面に溶接金網または異形鉄筋をかぶり厚さ20mm以上30mm以下で全面に配する。

溶接金網

「JIS G 3551 溶接金網-2005」に規定されたもののうち、線径6mm以上、網目寸法150mm以下のものを使用する。

異形鉄筋

「JIS G 3112 鉄筋コンクリート用棒鋼-2010」または「JIS G 3117 鉄筋コンクリート用再生棒鋼-1987」に規定されたもののうち、SD295A,SD295B および SDR295 でD10以上を使用する。

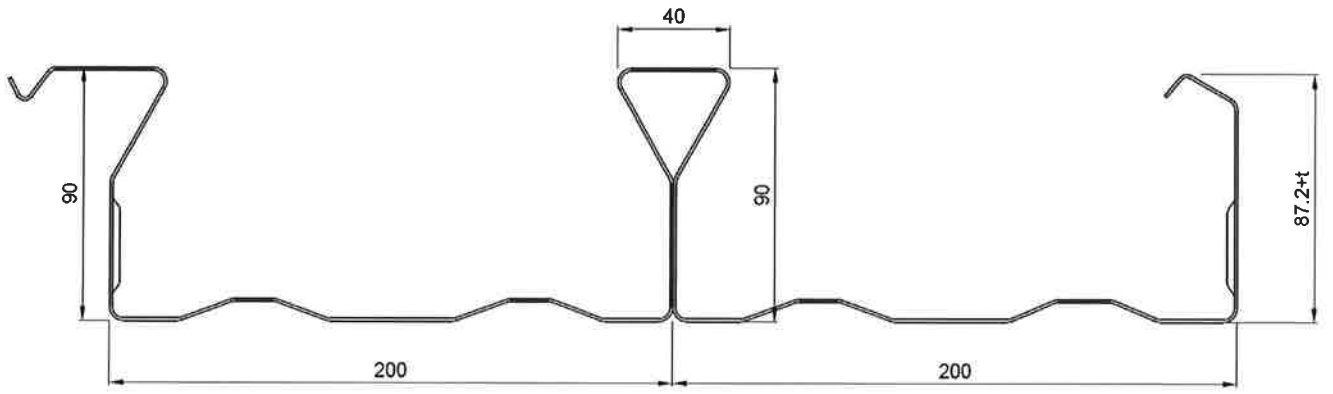


図 1-1 デッキプレート断面図

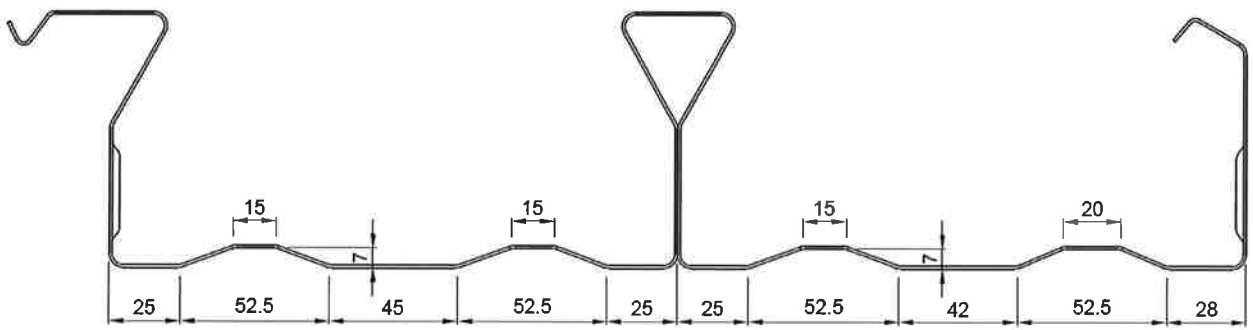


図 1-2 下フランジ凹凸形

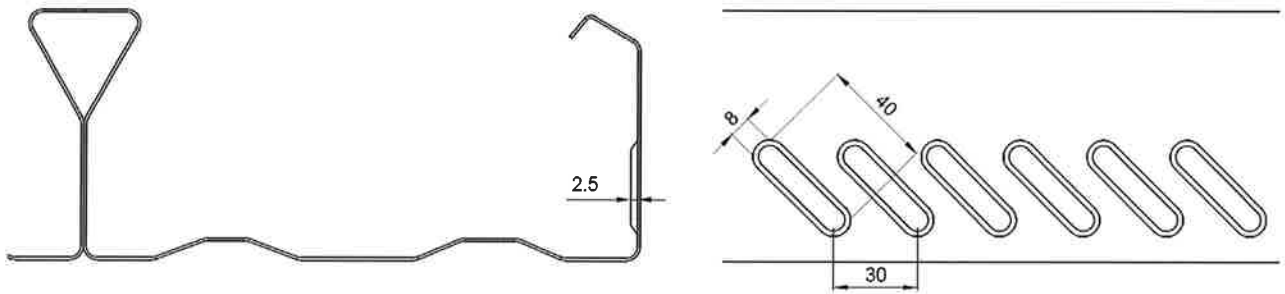


図 1-3 エンボス形状

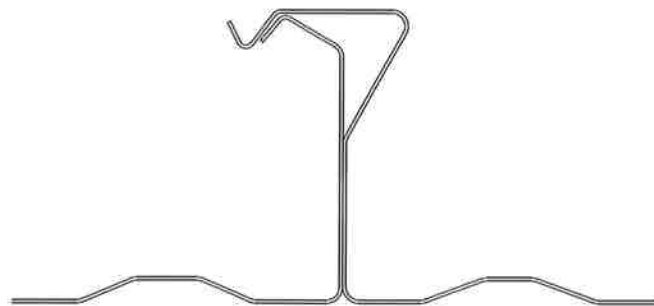


図 1-4 嵌合部詳細図

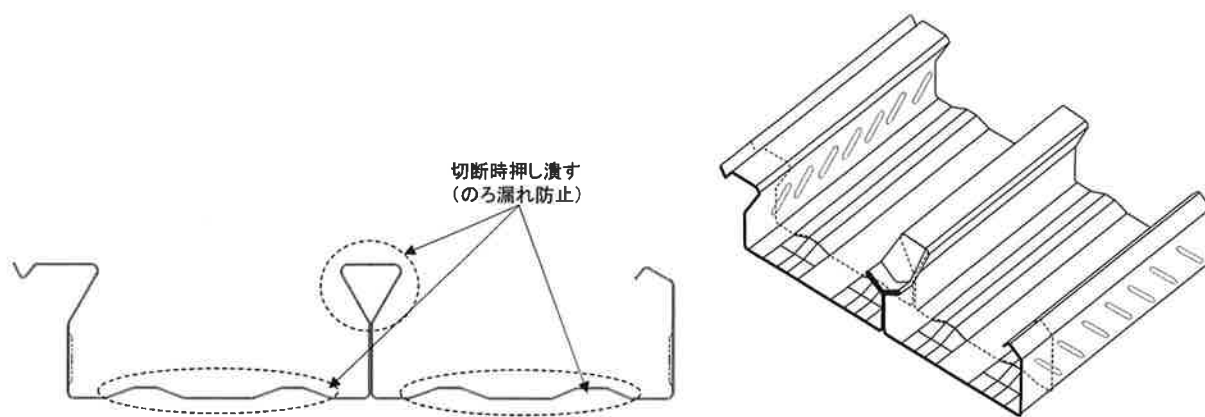


図1-5 エンドクローズ形状

表1 デッキプレートの断面性能 (1m 幅当たり)

品名	板厚 (mm)	断面二次モーメント I (cm ⁴)	正曲げ用断面係数 Zp (cm ³)	負曲げ用断面係数 Zn (cm ³)
合成スラブ用 デッキ	1.0	253.4	43.7	43.7
	1.2	303.5	52.2	52.2
	1.6	403.3	69.0	69.0

評定内容

1. 工法概要

本工法は、別紙1の1. 1. 1)～1. 5)に示す形状、材質を有するデッキプレートを用いて、1. 1. 6)～1. 9)に示すコンクリートを打設して形成される合成スラブ構造である。

本構造は、申し込みの適用範囲を適切に考慮した許容応力度計算が行われていることにより、平成14年国交省告示第326号に定める「デッキプレート版」に適合したものである。

2. 検討項目

平成14年国交省告示第326号に定める「デッキプレート版」の仕様規定を除外するため、建築基準法施行令第82条各号の定めるところによる構造計算によって安全性を確かめている。

設計法の妥当性を確認するために、デッキプレート版技術基準解説及び設計・計算例(日本建築センター)を準拠した実験および評価を行っている。

実験内容は以下である。

- ・合成スラブ正曲げ試験

以上より、本件は申し込みの範囲において妥当なものであると判断する。